

文芸 コーナー

詩・俳句・短歌

今回の児童・生徒のコーナーでは、南条小のお友達の作品を紹介합니다。



1 年
さいとうかおり

あさ

がっこうにくるとき、水たまりに
こおりがはっていたよ。
はたけには、
しもがいっぱいだったよ。
ゆういちくんたちが、ふむと、
さくつきくって、
おとがしたよ。
その、おとをきくと、
からだか、ぶるってふるえたよ。
先生に、しもばしら、もってきたのに
がっこうについたら、
とけちゃったの。

また、みつけようとしたけど、
もう、みつけられなかったの。



2 年
野崎 陽子

夕やけ

日曜日の夕方、
ぶらんこにのって空を見た。
オレンジ色っぽい夕やけが、
空の上に、
いつせいに広がっていた。
あたりには、だれもいなかったの、
みんなは、見られなかったにちがいない。
ぶらんこが、
ゆーら、ゆーら、ゆれて、
夕やけに、ピカピカ、かがやいていた。
さちえちゃんの家をそばを
オレンジ色にそめてかがやいていた。
家にかえて、夕やけのことを話したら、
「それは、きれいだったでしょうね。」
と、お母さんはいった。
月曜日に、また見たくて、
外に出てみたが、
夕やけは、なかった。
日曜日の夕やけが、
目にやきついて、はなれなかった。
本当に、きれいな夕やけだった。
みんなにもみせたいと思った。
とくに、すべりだいの上から見た夕やけは、
きれいだろうな。

みんなも、ぜひ一度見てごらん。
公園のすべりだいや、
ジャングルジムにのって。
きつとすてきな、夕やけが、
あなたの心に広がることでしょう。

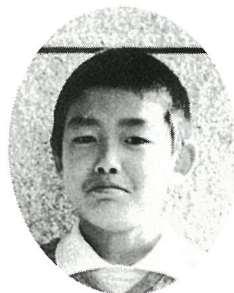


3 年
秀島 桃江

金魚すくい

のうぎょうさいへいって、
金魚すくいをやった。
お金をはらって、
おわんと金魚をすくうものももらった。
手がふるえた。
金魚の
頭の方をねらって、
金魚をすくうもので、
そうつとすくった。
サツと、おわんにいれた。
そのしゅんかん、
また手がふるえた。
わたしは、
「かみやぶけなくてよかった。」
と、思った。
少しなれてきたので、
今度は大きいのをねらった。
金魚は、バシバシバシあばれていた。
さつきとはちがって、
なかなかすくえない

どうしたらすくえるか
ちよつと考えた。
そうつとたてにいてみた。
金魚のつた。
パツともちあげると、
バリツと、
やぶけた。
「あーあ。」
と、思った。



4 年
佐久間良太

ぼうず頭

とこやへ行った。
毛を長くしようと思った。
友だちがいた。
「ぼうず頭にしよう。」
と言った。
かり終わった。
友だちの顔が、
おもしろくなった。
かがみにうつつた
自分の顔もおかしい。
二人とも、ぼうしを
ぎゅつとかぶった。
とこやを出た。
首のあたりが
ひゃつとした。

郵便番号簿
届きましたか!

横芝郵便局では12月中に新しい郵便番号簿を配布しました。何らかの手違
いで届いていない方は、横芝郵便局へご連絡ください。 ☎ 04798 ② 1411